



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

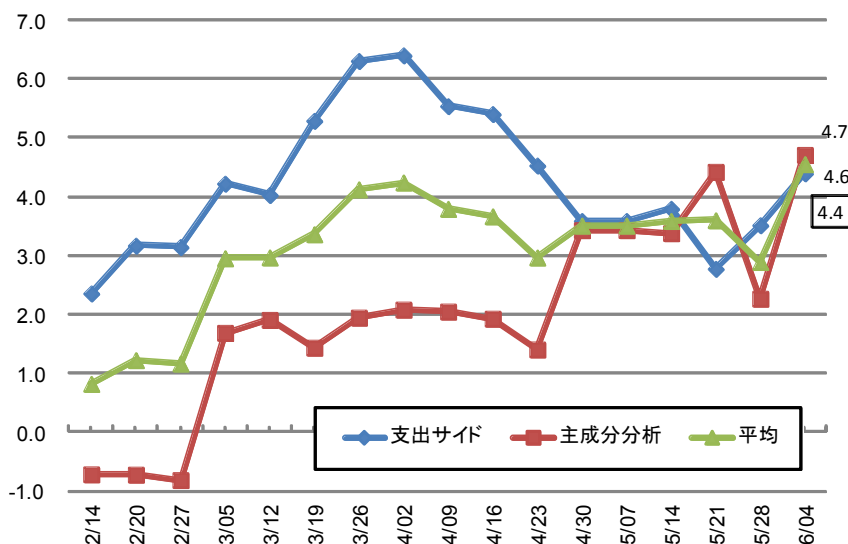
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年6月4日)

ポイント

- ▶先週は、5月の一部のデータと多くの4月データが更新された。4月のデータは概ね好調な結果となった。
- ▶GDPの民間住宅推計の基礎統計である工事費予定額(居住用)は4月に前月比+5.3%増加し、2ヵ月ぶりのプラスとなった。この結果、4-6月期の実質民間住宅の予測値は先週から上方修正された。
- ▶4月の資本財出荷指数は前月比+5.3%と5ヵ月ぶりのプラス。このため、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。
- ▶4月の生産者在庫指数が更新された結果、4-6月期の実質民間企業在庫品増減の予測値も上方修正された。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を、内需は引き続き拡大し、純輸出も小幅拡大するため前期比年率+4.4%と予測する。先週の予測(+3.5%)から上方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<4月の民需関連データは概ね好調：4-6月期の実質GDPは前期に引き続き堅調な伸び>

先週(5/28-6/1)は、5月の新車販売台数、財政資金対民間収支、4月の鉱工業生産指数、労働力調査、毎月勤労統計調査、家計調査報告、商業販売統計、建築着工統計調査、企業向けサービス価格指数、製造業部門投入産出物価指数及び3月の建設工事費デフレータが更新された。これらのデータは民間住宅、民間企業設備、在庫品増減、公的固定資本形成や雇業者報酬の予測値に影響を及ぼす。

4月の新設住宅着工数は前月比+5.7%増加し、2ヵ月ぶりのプラス。GDPの民間住宅推計の基礎統計である工事費予定額(居住用)は4月に同+5.3%増加し、2ヵ月ぶりのプラスとなった。この結果、4-6月期の実質民間住宅の予測値は先週から上方修正された。

4月の鉱工業生産指数は前月比+0.2%と2ヵ月ぶりのプラス。予測調査によれば5月の製造工業の生産は同-3.2%の減産、6月は同+2.4%の増産が見込まれており、予測が実現すると4-6月期の製造業生産は小幅の前期比マイナスになる。一方、4月の資本財出荷指数は前月比+5.3%と5ヵ月ぶりのプラス。このため、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。また4月の生産者在庫指数が更新された結果、4-6月期の実質民間企業在庫品増減の予測値も上方修正された。

今週(6/4)のCQM(支出サイド)は、先週発表されたデータを更新した結果、4-6月期の実質GDP成長率を、内需は引き続き拡大し、純輸出も小幅拡大するため前期比年率+4.4%と予測する。先週の予測(+3.5%)から上方修正された。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550